

# 分科会20

## こんなデイケアがほしい！ ～ユーザーからの発信～

デイケア卒業者・現ユーザーからの発信！ みんなで語ろう！ デイケアにおける社会参加へ向けてのアプローチ ～訪問支援・就労支援・ピアサポーターの採用など～

話題提供者：福本朋子、山本和美（なかまの家）

小林裕樹、小島康宏（華蔵寺クリニック）

鈴木高史、石田正平（汐入メンタルクリニック）

上森一郎（ひだクリニック）、櫻田なつみ（多機能事業所マーレ）

総括：後藤雅博（南浜病院）

コーディネーター：肥田裕久、木村尚美（ひだクリニック）

大山早紀子（日本社会事業大学）

この分科会の大きな目的は「これまでのデイケアプログラムは当事者の目で見えてどうなのか？ 当事者の方を中心とした公開討論を通して、当事者の目線から今後のデイケアのあり方を提案、発信していく会にする」ことでした。最初にコーディネーターからデイケアの変革が迫られる中、デイケアへの認識も変わりつつあることについての話と問題提起がありました。

次に、この分科会の目的とその趣旨について確認をした後に、話題提供をしていただきました。話題提供者は現在、デイケアを利用中の方、デイケアを卒業した方の双方がおられて、それぞれの視点から話題提供者のユーザーの方から、次の点を中心に語っていただきました。

- ①自身の経験を踏まえて、デイケアについて
- ②そのデイケアでプログラムはどうあったら良いのか？
- ③デイケアでピアサポーターを活用していくには？
- ④デイケアの新しい形として、アウトリーチ支援や就労支援とのコラボレーションのあり方
- ⑤デイケアの未来像について

そして、その後、8人程度のグループに別れて、自分たちの考えるデイケアについて話し合っていました。その中で、デイケアの役割として

- ◆回復した人がデイケアにいるのは、とても残念
- ◆当事者主体と言って任せきりにしないで導いてほしい  
といった厳しい意見や、デイケアへの要望として
- ◆夜型・深夜型のデイケアがほしい
- ◆楽しいだけでなく就労を目指したプログラムがほしい
- ◆ピアスタッフをデイケアの施設基準に位置付けてほしい

などの様々な意見が出されました。

最後に後藤さんより、デイケアが今後目指していく方向について、総括をいただきました。

約130人の参加者は当事者が7割、従事者が3割、登壇者は全て当事者という中でデイケアの現状とこれからを一緒に考えることができたように思います。また2時間半、休憩もほとんどなく行われ、非常に濃い内容だったと思います。デイケアでの様々な取り組みがあることを知ると同時にピアの活動の促進するために、従事者自身が変わっていく、活動していく必要性も語られ、当事者も従事者にとっても、これからを一緒に考えていける、未来につながるデイケアについて考える分科会になったのではないのでしょうか。

《大山早紀子（日本社会事業大学）》